

岐阜県に生きる全ての生徒に
「力が付いて」「楽しくて」「またやりたい」
と思う、国語の授業を提供するために

第1回総会資料 岐阜県中国研 令和元年度の方向

本荘中学校 伊藤 雄樹

平成30年度の振り返り

一昨年度に行われた全国大会。昨年度から、この全国大会の成果を「広げる」「深める」というキーワードで活動をしてきました。平成30年度は、「広げる」に特に重きを置き、活動を展開しました。そして、以下のようなインフラを完備しました。

【手順】



Web上のサーチエンジンで、「ぎふこくご」をキーワードに検索



「第46回 全日本中学校国語教育研究協議会岐阜大会」でホームページにアクセス



ホームページ左上の「授業資料はこちらより」をクリック



「すぐに授業資料がみたい」の横の赤い円をクリック



希望のものをクリック



現在、全国大会授業関係の全てのデータの閲覧が可能です。随時実践をアップロードしていきます。

※キーワードが「ぎふこくご」で出てこない場合は、アドレス欄に「kokugo.chu.jp」と入力して下さい。
本年度は、この活動を継続しつつ、令和3年度全面実施の学習指導要領に向けての中国研としての捉えを明らかにしつつ、令和3年度実施の飛騨大会に向けての動き出しを行っていきたくて思っております。

昨年度までにおける、『令和3年度実施の「中国研 飛騨大会」に向けての具体的な動き出し』

飛騨大会実行委員長 三輪太雄校長先生（高山西小学校にご異動されましたが、会長は継続して頂きます）と飛騨大会実行委員 野島将也先生（高山市立日枝中学校）を中心とし、すでに飛騨大会への動き出しを進めてくださっています。平成30年8月8日には、高山市立日枝中学校を会場に、飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会を開催し、飛騨大会の組織づくりを行って頂きました。そして、

【研究部長】	金子紀之先生（下呂市立萩原南中学校）
【運営部長】	斎藤裕輝先生（高山市立東山中学校）
【話す・聞くこと部長】	熊崎智文先生（下呂市立金山中学校）
【書くこと部長】	荒井貴行先生（高山市立久々野中学校）
【読むこと部長】	上條 亘先生先生（下呂市立下呂中学校）
【言語文化部長】	西岡隆行先生（高山市立中山中学校）

以上の先生方に、飛騨地区の実践を推し進めていただくこととなりました。また、現段階で、

日 時：令和3年 10月22日（金）の線で動いています。
場 所：飛騨文化センター（全体会） 日枝中学校・松倉中学校・中山中学校・東山中学校（会場校）

ということがはっきりとしてきました。本年度は大会実行委員 野島先生の提案を受けて、飛騨大会への動き出しをさらに推し進めていきたいと考えています。

飛騨地区大会当日の大まかな内容は、何を行うのか？（右図は前回大会加茂大会での実績）

明らかにしていきたいこと	可茂地区大会での実績
① 「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」4部会の授業をそれぞれ何個公開するのか？ （合計何個の授業公開を行うのか？）	① 中部中学校にて6つの授業を公開（授業者も全て中部中） 指導案は、実施年度の1年前に作成完了しており、授業者に予定されていた方の異動があった場合は、指導案を引き継ぎ、初任者が授業を行った部会もあったとのこと。 公開の内訳 「話す・聞く」→2・「書く」→1 「読む」→2・「言語文化」→1 合計6本の授業公開
② 実践発表は行うのか？	② 可茂地区大会では、各領域での実践発表を行ったとのこと。4部会の中で、県の研究部員から1人、可茂地区から1人の実践を持ち寄り、合計2つの実践発表を行ったとのこと
③ 授業者をいつごろ決定していくか？ （実践発表を行うとすると、その実践発表者も）	③ これについては、はっきりしない所ではあるが、ある授業者に聞いた所、実施年度2年前に、県の研究部長が地区を訪れ、研究構想を説明後、指導案を作成開始。授業者は異動などもあるので、実施年度に指導案を引き継ぎ、初任者が行った部会もあったとのこと。
④ 全体会では何を行うのか？ 会場校では何を行うのか？	④ 全体会を「可児市ゆとりピアホール」で開催。全体会では、中国研会長あいさつ・地区会長（実行委員長）あいさつ・基調提案として、県の研究総括が全体提案を行った。 その後、授業会場である中部中に移動。公開授業と、分科会を中部中で行い、全体挨拶を行い散会とのこと
⑤ 紀要（刊行物）には、何を入れるか？	⑤ 加茂地区大会の紀要内容は 全体 (1)研究全体構想 ※担当 県中国研研究総括 (2)加茂地区の実践※担当 県中国研研究副総括（加茂大会実行委員） 各部会 (1)〇〇部研究構想※県研究部長 (2)実践事例 ※研究部で3～7の実践を掲載（一実践2～4頁） ※担当 県研究部長 及び 研究部員 (3)言語活動一覧表※担当 県研究部長 (4)単元指導計画 ※研究部で作成。1単元0.5～1頁 各学年3～6単元分を掲載していた。 ※年間指導計画がある部会もあった

この実績を受けて、飛騨地区大会を、次のような方向で進めていきたいと現段階では考えております。

- ① **各部会1つの授業は公開。授業者は飛騨地区の先生方をお願いする。**
- ② 実践発表を会場校で行う。今決定している組織をうまく使い、**県の領域部長が、各領域の研究構想の説明、飛騨地区でその研究を受けての実践事例の発表**を行ってはどうか？
もし**可能なら、飛騨地区の領域部長さんが、実践発表者**となつてはどうか？
(難しいければ、飛騨地区の領域部長さんが中心となって、飛騨地区で実践発表を行って頂く方の人選をお願いする)
- ③ 授業校は、すでに、中山中学校 →話す・聞く 松倉中学校 →書くこと 東山中学校 →言語文化
日枝中学校 →読むこと
というところまで、決定している。そうすると、会場校の国語科の先生が授業者となるかと思われるが、もちろん3年先なので、「変更もありえる」が、見込みは決定していけると良いかと思われる。
また、本年度8月6日に行う「飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会」に県の部長も参加し、**各領域の授業の展開方法などについて、共通理解を図る場**としていく。(別紙8ページ参照)
指導案は令和元年度に作成開始、令和2年度に授業者候補の先生が同一単元でプレ授業を行い、県の研究部はその授業に参加し検討を行う という形で研究を推し進めてはどうか？
- ④ **全体会**の流れは以下のようでしょうか？(別紙 飛騨大会実行委員 野島先生の提案より引用)

10:00~10:30 受付(高山市民文化会館)

10:30~11:30 全体会

県中国研会長挨拶(安田英士校長先生)

飛騨中国研会長挨拶(三輪太雄校長先生)

基調提案(県中国研研究総括 伊藤雄樹)

指導助言(岐阜県教育委員会 学校支援課 山田高秀先生)

分科会での授業公開者及び実践発表者等の紹介(大会実行委員 野島先生)

11:30~13:30 授業公開会場への移動・昼食

13:00~13:20 受付(授業公開学校)

13:30~14:20 授業公開

・中山中学校(話す・聞く) ・松倉中学校(書くこと)

・白川郷学園(読むこと) ・日枝中学校(読むこと) ・東山中学校(言語文化)

14:20~14:35 休憩

14:35~15:50 分科会

・研究構想の説明(県研究部長)

・実践発表(飛騨地区研究部長)

・授業について(授業者)

・質疑応答及び討議

・指導、講評(指導主事)

分科会が終わり次第解散→各会場の片付け

※以下の三役を、飛騨中国研の部員が担当する。

・司会者

・記録者

・写真撮影者

- ⑤ **研究紀要は以下のもの**を入れてはどうか？(別紙 飛騨大会実行委員 野島先生の提案より引用)

全体 (1)中国研会長あいさつ (県中国研 安田校長先生)

(2)県教委あいさつ (県教委 山田高秀先生)

(3)飛騨地区校代表あいさつ (三輪校長先生)

(4)研究全体構想 (県中国研 研究総括)

(5)飛騨地区の実践 (研中国研研究副総括 飛騨大会実行委員 野島 将也先生)

(飛騨地区研究総括 金子 紀之先生)

各部会(1)〇〇部研究構想 ※担当 県中国研領域部長

(話す・聞く 小島光太郎先生)(書く 一川 宗弘先生)

(読む 小宅 陽久先生)(言語文化 清水 裕樹先生)

- (2) **当日の授業の指導案 要検討**(別紙1~3ページ参照 前文・単元指導計画・展開案1枚ずつ)

指導案は、全国大会のように、紀要に綴じこんでしまつてはどうか？

当日までに変更はありうるので、改定した場合は、当日授業会場前に置くことで対応する。

理由：すべての部会の指導案を手にすることが研究にかかわる情報共有につながると考える。

会場が4校に分かれるため、参加した学校以外の指導案もやはりほしいと思われるので、

綴じこんでしまつてはどうかと思われる。

- (3)研究会で発表する飛騨地区の実践事例についてまとめたものとその単元指導計画 **要検討**

⑥言語活動一覧表をどのようなものにしていくか？ **要検討** ※指導要領全面実施1年目が飛騨大会の実施年度

ここで考えたいのが、「飛騨大会実施が、学習指導要領全面実施及び、教科書が新しくなった1年目であるということ」である。新しい教科書を手にして半年間で、どれだけの質のものを供給できるかを考えた時、現行の言語活動一覧表の1枚目は、指導要領をベースにして作成できると考えられるが、2枚目の「言語能力具体化一覧表」はなかなか難しい。そこで考えたのは、できるだけ質の高いものを供給しようと考えた時、「生きてはたらく言語能力一覧表①」は、学習指導要領があれば作成できるので、令和3年度完成を目指して、今から作成してはどうか？

「生きてはたらく言語能力一覧表②」は、現段階で作成しても、その教材が差し替えになる可能性もある。それならば、授業公開を行う単元だけに絞り込み、より精度の高いものを供給してはどうかと考える。そのため、「生きてはたらく言語能力一覧表②」は、以下に記したもので、「授業公開する単元に特化」して、質の高いものを提供してはどうか？ こういったことを、令和元年8月6日に行われる『飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会』で検討してはどうか？

「生きてはたらく言語能力」一覧表① -「B 書くことI(確かに書く)」-		平成29年度版
作成にあたって (1) この一覧表は、B領域における各指導事項ごとに「義務教育の出口の姿」をイメージして「生きてはたらく言語能力」を具体化しようとしたものです。 (2) 指導要領の解説に基づいて各学年での指導事項をより明確にし、教師がねらうだけでなく、学習者自身がこれらの力を身に付けよう意識できるようにする。		
課題設定や取材	知識や技能の具体	学年
(第1学年) ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。	1 体験や学習したこと、身近な人から聞いたことから興味や関心をもつことができる。	1
	2 何について、誰に向け、何のために書くのかを具体化することができる。	1
	3 本、新聞、雑誌、テレビ、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用し、材料を集めることができる。	1
(第2学年) ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。	4 人間、社会、文化、自然などにかかわることに疑問や問題点をもつことができる。	2
	5 学校図書館や地域の図書館、公共施設などを利用して資料を収集することができる。	2
	6 収集した材料を比較、検討しながら自分の考えをまとめることができる。	2
(第3学年) ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。	7 取材を繰り返して、様々な角度から検討することで考えを深めることができる。	3

全国大会で提案した「生きて働く言語能力一覧表①」指導要領の指導事項を学年別で整理したもの (別紙資料 4 ページ参照)

「生きてはたらく言語能力」一覧表②(言語活動例) -B 書くことI(確かに書く)-【光村図書】				
1期				
学年	教材名	付きたい能力 (この教材でこけ付たい力は何か)	一覧表①との対応	言語活動
第1年	「わかりやすく説明しよう」 —観点を立てて書く— 【説明文】	・調査が終わった段階で、自分が調べた事柄について、誰に向けて書いているのか(相手)、何のために書いているのか(目的)、表現する媒体・表現する場所や場面・制限字数(場面状況)に合わせて、情報を取捨選択する能力 (イ 構成に関する指導事項)	1年イ 構成1	・来年度の1年生(現 小学校6年生)や、宿泊研修に行っていない先生など、宿泊研修に行ったことがない人に、どのような場所、どのような研修を行うかを説明する。 (土岐市考案実践) ・出身小学校が違う仲間出身小学校の特徴やよさを説明する。 (土岐市考案実践) ・小学校の担任の先生に、中学生となった自分の今の生活を説明する手紙を送る。その手紙の1コーナーとして、自分が体験した宿泊研修の説明をする。 (中津川市考案実践) ・新学年となり、出身小学校が違う仲間も多くなる。その出会いに際し、会話のものとなるかもしれない、「自分のお気に入りの○○」を紹介する。 (多治見市考案実践) ・現代の「もの(リサイクル・使い捨て・3Rなどを視点に)」に対する現状を交する。教材文「江戸からのメッセージ」を読み、大切にするという先人の精神や知恵を知り、その尊さや面白さに気付くことができるようにする。その後、単元を通して、先人の精神や知恵についての自分の考えを深め、仲間を紹介する文章を書く。 (恵那市考案実践)

全国大会で提案した「生きて働く言語能力一覧表②」指導事項を細分化し、その教材で、付きたい力を付けるためにどのような言語活動が考えられるかをまとめたもの (別紙資料 5・6 ページ参照)

言語活動例	指導事項	言語活動	評価標準と評価方法	予想される生徒のつまずきと対する手立て	時
ア	・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。【課題設定や取材】	・関心やアンケートや、インタビューを用いて、加納中学校の生徒や保護者の方が、来年度の体育祭での学校全員構成員が、どんなルールがいいと考えているかを調べる。	・アンケートやインタビューの結果から、加納中学校の生徒や保護者の方が来年度の体育祭での学校全員構成員が、どんなルールがいいと考えているかを調べる。(ノート)	◎何をどうやって調べるかというかが分からない。 ◎【学校の仲間や、今年の仲間が、本年の体育祭での学校全員構成員が、どんなルールをもって調べるかを調べる】という問いかけ、アンケートを作成しようという思考に到達できるようにする。 ◎アンケートの結果を項目ごとにまとめる。整理となる部分を指示させ、その部分を印刷できるように指示する。	2
イ	・自分の立場及び伝えたい事や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。【構成】	・意見文を「起承転結」の四段階で構成し、自分の意見(「起」)、意見を交える根拠(「承」「転」)の部分を書く。	・意見文を「起承転結」の四段階で構成し、自分の意見(「起」)、意見を交える根拠(「承」「転」)の部分を書いている。(意見文)	◎どうやって書き出すかというのかが分からない。 ◎自分の提示するモデルに対して、自分の意見や根拠をどうやって述べ、書き進めることができるようになる。 ◎根拠となる「承」の部分に何を書くかというのかが分からない。 ◎材料整理した内容からどのように提示し、書き進めるのかが指示されたものの中から一つ選ばせ、その後、印刷版に書かれたことを書き進めるように指示する。	4
ロ	・事象や事柄、意見や事柄が相手に効果的に伝わるように、説明や事柄を加えたり、構成を工夫して書くこと。【記述】	・意見文の「転」の部分に、反論を想定し、反論に対する自分の考え(「起」)を書き加え、最後に自分の意見(「起」)を書き、意見文を構成する。	・自分の「提案の問題点」を見付け、「問題点を上回るよさ」または、「既述可能な解決策」のいずれかを考える。自分の意見に対する反論を想定して意見文(「起」)を書いている。	◎どうすると、反論を想定し意見文を書くことができるか分からない。 ◎自分の提示するモデルに対して、自分の意見や根拠をどうやって述べ、書き進めることができるようになる。 ◎複数の問題点の中で、どれを選ぶべきかが分からない。 ◎複数の問題点の中で、「解決できる問題がどうか」を視点を述べたことを判断する。	5
ハ	・事象や事柄、意見や事柄が相手に効果的に伝わるように、説明や事柄を加えたり、構成を工夫して書くこと。【記述】	・「例えば」という接続語を用いて、体験やアンケート、インタビューで調べた事実を入れて書く。 ○「(承)の部分」 ○「(転)の部分」 ○「(起)の部分」 ○「(結)の部分」	・自分の意見が相手に効果的に伝わるよう、左記の三つのうち、いずれかを自分の意見文に合わせて書いている。(意見文)	◎どうやって書けば自分の考えが効果的に伝わるか分からない。 ◎接続詞のモデルを示し、「どのように書き進めると効果的に伝わるのか」という視点を話し合う機会を設ける。その話し合いで、左記の三つを軸として考え、書き進めるようにする。 ◎それでも書くことに抵抗がある生徒には、「三つの視点で書き出した形を示した補助プリントを配布し、「どれが一つを選んで書く」と声をかけすることで、書き進めることができるようにする。	6

教科書が変わる1年目ということを考慮し、公開授業単元だけに特化した「生きて働く言語能力一覧表②」案 (言語能力一覧表に、指導計画を組み込んだもの) (別紙資料 7 ページ参照)

- ⑦ 現在の言語文化部会のあり方を一考したい。令和3年度全面実施の学習指導要領では、言語文化は、「知識及び技能」の一側面にとらえられている。そう考えた時、現在の言語文化部会が、飛騨大会で、古典だけを研究の対象として扱っていくことや、部会の名称を一考してはどうか？

現在決定している飛騨地区の組織と、県の研究部とが来年度以降、どのように接続していくか？

	【県の研究組織】		【飛騨地区の研究組織】
【研究総括】	伊藤雄樹 (岐阜市立本荘中学校)	【研究部長】	金子紀之先生 (下呂市立萩原南中学校)
【飛騨大会実行委員】	野島将也先生 (高山市立日枝中学校)	【運営部長】	斉藤裕輝先生 (高山市立東山中学校)
【話す・聞くこと部長】	小島光太郎先生 (恵那市立恵那東中学校)	【話す・聞くこと部長】	熊崎早智文先生 (下呂市立金山中学校)
【書くこと部長】	一川宗弘先生 (岐阜市立青山中学校)	【書くこと部長】	荒井貴行先生 (高山市立久々野中学校)
【読むこと部長】	小宅陽久先生 (垂井町立不破中学校)	【読むこと部長】	上條 亘先生 (下呂市立下呂中学校)
【言語文化部長】	清水裕樹先生 (揖斐川町立坂内中学校)	【言語文化部長】	西岡隆行先生 (高山市立中山中学校)

私個人の思い

せっかく全国大会で「県中国研」と「地区の研究」とが接続されたので、(オール岐阜) このつながりを今後の県大会にも生かしていきたい。

そこで、以下のようにしてはどうかということを提案します。

- ① 全国大会時同様、飛騨大会の授業の指導案・実践発表の検討、プレ授業などを飛騨地区で実施し、その会に県の研究部長をはじめ、県の研究部員も参加し、よりよい実践を作り上げることができるようにする。また、主務者提案にもあったように、令和元年度の第1回明日の国語を考える会を飛騨地区で行ってはどうか？
- ② 飛騨地区の研究部長さんに、県の副部長に位置付いていただき、県の部長と、次ページのような仕事分担で、研究を推し進める。
- ③ 以下のような仕事分担の確認や、授業者・実践発表者の確定の仕方などを、令和元年夏に行われる「飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会」で、県の部長と、飛騨地区の研究部長とで確認をし、今後の日程などを検討してはどうか？ (部長は具体的な授業の進め方の提案)

大まかな仕事の枠組み

【部会】 担当校長・教頭先生	部会部長	部会副部長	飛騨大会当日及び それまでの仕事内容
【研究総括】 安田英士校長先生 (岐阜西中学校)	伊藤雄樹 (本荘中学校)	金子紀之先生 (萩原南中学校)	① 全体会における基調提案 (伊藤) ② 全体会における飛騨地区研究 の歩み及び授業者・実践提案 者の方・分科会の流れの説明 (金子先生)
【飛騨大会実行委員】 三輪太雄校長先生 (高山西小学校)	野島将也先生 (日枝中学校)	斉藤裕輝先生 (東山中学校)	会場押さえや会場準備 司会進行 (全体会・会場校)
【話す・聞くこと】 樋田東洋校長先生 (恵那北中学校)	小島光太郎先生 (恵那東中学校)	熊崎智文先生 (金山中学校)	① 各領域1～2の公開授業 (指導案作成・指導案検討・プレ 授業の参観等) ② 分科会における研究部長研究 構想の発表 (小島先生・一川先生 小宅先生・清水先生) ③ 飛騨地区の実践発表 斉藤先生・熊崎先生・荒井先生・ 上條先生・西岡先生または飛騨地 区の先生方で発表=その発表者は 飛騨地区の部長で決定する。
【書くこと】 長村覚校長先生 (長良中学校)	一川宗弘先生 (青山中学校)	荒井貴行先生 (久々野中学校)	
【読むこと】 片桐一男校長先生 (白鳥中学校)	小宅陽久先生 (不破中学校)	上條 亘先生 (下呂中学校)	
【言語文化】 大蔵徹哉校長先生 (東部中学校) 富田泰仁教頭先生 (星和中学校)	清水裕樹先生 (坂内中学校)	西岡隆行先生 (中山中学校)	
基本的な仕事内容	☆研究部を行う(指導案検討・プレ 授業など)際の派遣依頼の作 成 ☆研究部を行う際、会場となる学 校への電話を、部会長の担当校 長先生にご連絡いただけるよ うに依頼をかける ☆公開授業・実践発表の検討統括	☆研究部を行う際の、(指導案検 討・プレ授業など)会場押さえ と日時の設定、部長に派遣依頼 作成の依頼をかける (飛騨地区内で実施の際) ☆飛騨大会の授業者の決定・実践 発表者の決定 ☆公開授業・実践発表の検討副統 括 ☆部会内の研究部員への旅費会計	

令和3年度実施の「飛騨地区大会」までの向こう3年間の研究に関わる見通し

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 飛騨大会実施
行うこと	① 飛騨大会の実施要綱の作成と検 討(準備委員長及び準備委員研究副総括 野島将也先生) ② 飛騨地区中学校国語科研究協議 会 夏季統一研究会へ中国研研究 部部長が出席(研究の共通理解を 図る) 特に研究部長は、この会で、具体的な 「授業の進め方」の提案ができるよ うに準備を行う。 ③ 飛騨大会における授業者の決定 と指導案の作成開始 ④ 飛騨大会における実践提案者の 決定と実践提案の作成開始 ⑤ 「中国研ホームページを活用し た情報共有(黒板写真等のホーム ページアップ)」2/3年度 ⑥ 年間研究報告 (機関誌「ぎふこくご」)	① 飛騨大会の指導案検討 ② 飛騨大会における各部会の プレ授業 ③ 飛騨大会の実践提案の検討 ④ 第2回研究総会での研究部 会で、実践提案および、指導 案の検討 ⑤ 「中国研ホームページを活用 した情報共有(黒板写真等 のホームページアップ)」 3/3年度 ⑥ 年間研究報告 (機関誌「ぎふこくご」)	① 飛騨大会の授業最終準備 ② 飛騨大会の実践提案最終準 備 ③ 飛騨大会の運営 ④ 「中国研ホームページを活用 した情報共有(黒板写真等 のホームページアップ)」の 更新 ⑤ 年間研究報告 (機関誌「ぎふこくご」にて 飛騨大会の実施報告) ※飛騨大会実施の年が、学習 指導要領全面実施及び、教 科書が変更となる1年目と なります。

「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

飛騨大会に向けて、私たち研究部ができることは、「実践例を積み重ね、指導案の作成・検討を行う時、『以前このように実践してみたけど、その時は〇〇』と、実践をもとにして、精度を高めていくこと」ではないかと考えました。そのために、本年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、本年度・来年度中に行われる指導案作成・検討に向けての土台としていきたいと考えています。

研究部員募集のお願い

以上のような計画で、本年度研究を推し進めて参りたいと考えております。

もし、研究部員を希望される方がいらっしゃいましたら、大変お手数ではございますが、下記までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。

担当者 伊藤 雄樹 (いとう ゆうき)

連絡先 090-7039-8831

メールアドレス yukiito333@hotmail.com

令和元年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月27日(月)	第1回 研究部総会 ① 研究部長および、研究部員の紹介 ② 全体研究構想および、令和3年度開催の飛騨大会までの中国研活動の見通し(研究総括伊藤より) ③ 各研究部研究構想の確認(各研究部部長より) ④ 岐阜県中国研における「中国研ホームページを活用した情報共有」「明日に生きる言語活動一覧表」を元に、授業実践及び加筆修正・黒板写真のホームページアップ)における2年次の役割分担	開催は、岐阜市教育研究所を予定しております。
各部会で部長が集約(随時)	指導案・黒板写真等の授業資料を情報部 岸 浩道先生にメールで送付	メールアドレス beans@tcp-ip.or.jp
8月6日(火) 午前または午後	第1回「明日の国語を考える会」の運営	令和元年度は、飛騨大会に向けての取り組みの一環として、 飛騨地区で実施 します。
8月6日(火) 午前または午後	飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会に中国研研究部 部長が出席(研究の共通理解を図る)	午前中に「明日の国語を考える会」、午後に「飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会」というように、同一日・同一会場で実施できればと考えております。
8月19日(月) (県統一研究日) 10:30~12:45	中国研 夏季研修会 岐阜大学 山田敏弘教授による講演会	開催場所は、「岐阜市中央図書館(メディアコスモス)」です。
12月	1年間の研究の歩みを「ぎふこくご」にまとめる執筆(主務者・研究総括・研究部長・各部会1名の方 → 実践報告)	
12月下旬	第2回「明日の国語を考える会」の運営	第2回の「明日の国語を考える会」は例年通り、岐阜市内での開催を予定しています。
1月下旬	ぎふこくご賞の審査	
2月中旬～ 下旬 (19日の線で調整しています。決定し次第お伝えいたします。)	第2回 研究部総会 ① ぎふこくご賞の表彰および、受賞者の方の発表 ② 各研究部研究構想の検討と完成 ③ 岐阜県中国研における「中国研ホームページを活用した情報共有」(「明日に生きる言語活動一覧表」を元にした授業実践及び加筆修正・黒板写真のホームページアップ)における3年次の役割分担 ④ 来年度の研究部員継続のお願いと確認 ⑤ 「ぎふこくご」の配布による、研究報告	飛騨大会における計画を、この時点である程度ご報告いただけるように、準備を進めてまいります。 開催は、岐阜市教育研究所を予定しております。

研究部総会（午後）に各部会で行って頂きたいこと

① 自己紹介

② ○○部研究構想の説明（部長より）

今回の「言語文化」部会には、伊藤も参加させていただければと思っております。理由は、飛騨大会実施年度から、学習指導要領が新しくなります。

その時に、「知識及び技能」の内容は、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」「(2) 情報の扱い方に関する事項」「(3) 我が国の言語文化に関する事項」の3つで構成されています。その中で、「言語文化」だけを取り上げる方向で研究を行っていくのか？それとも、3つの全てを研究対象としていくのか？

私個人としては、後者かと思っています。

例えば、飛騨大会当日の授業を「古典【(3) 我が国の言語文化に関する事項】」で行い、実践発表を「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」や「(2) 情報の扱い方に関する事項」等で行っていくと、より今日的な提案になるのではないかと考えています。

そうするために、これまでの実績を大切にしつつ、今日的な流れをくみとるには、「言語文化部会」という名称を変更（ごめんなさい。まだ名称は考えていません）し、(1) (2) (3) 全ての内容を補完していく方向に持って行ければと考えています。

それでよいかを、10日の役員会で話題にしたいと考えています。その結果をお伝えする形なのか、それとも部員さんの思いを伺って役員会にあげていくのか、どちらかの方法でアプローチしていきたいと考えています。

そういった意味で、私も一緒に「言語文化」部会で勉強させてください。

③ 具体的な授業の進め方の説明

「○○部研究構想」を具現するために、これまで全国大会や、昨年度のホームページに様々な実践を提供して頂いたと思います。

実は、8月の飛騨地区大会で、「具体的な授業の進め方」を知りたいというリクエストが飛騨地区から届いています。今回の研究部総会でも「具体的な授業の進め方」を説明できるような時間を作って頂けるとうれしいです。

例えば、「全国大会や昨年度ホームページにアップした実践を一つ指導案で持ってきて、要所要所を赤ペン入れた用紙を準備して説明する」や、「ある程度の授業の流し方のひな形を作って頂いて、説明する」のもかまいません。限られた時間の中で「効率」と「効果」の高いものを考えていただければと思います。

おそらく、新しく研究部員になってくださった方は、理論ももちろんですが、「具体的に授業をどうやって行うのか？」が知りたいと思いますので、今までの実践を用いて説明していただけたらとうれしいです。

ここで、確認されたことを、8月の飛騨地区での準備会で飛騨地区の研究部員の先生方へに説明していただけたらとうれしいです。

④ 飛騨大会に向けて、決定事項の伝達

飛騨大会実行委員野島先生からの提案を事前にデジタルデータでもらい、まず刷りをします。また、私の提案でも当日お渡しする紀要の中身などについても、第1回の役員会でも話題にしたいと思っております。

その中で、言語能力具体化一覧表について、どのようなものを提供していくかのご意見を頂こうと思っております。以前提供した「言語能力具体化一覧表」は2枚組で、1枚目は、学習指導要領さえあれば現段階で作成が可能だと思います。

しかし、2枚目は、作成する上で、新しい教科書が必要となります。しかし飛騨大会実施年度は、新しい教科書を使っただけの初めての年度となります。そう考えたとき、無理に年間の教材を見通して作成するよりも、「当日公開する授業の単元」だけに絞ってより具体的にしたものをご提供してはどうかと思っております。これも、第1回の役員会でお伺いしようと思っております。その上で、決定事項を部会に伝えていただくのか、それとも、部員の方の思いを伺って頂くのかを、またお伝えします。

指導案については、現在のものを継続して使っていく予定です。

⑤ 本年度の〇〇部の活動計画を立てる上で、「中国研ホームページ」への資料提供の分担

現段階で、どの学年で飛騨大会の授業を行うかも決まっていません。

それに加えて、新しい教科書を使っただけの初年度が飛騨大会の実施年度になります。

この状況を踏まえて、私たち研究部が何ができるかを考えた時、「できるだけ10月付近に学習する予定の各領域の教材の実践を積み重ね、3年後の飛騨大会の実践の土台とする」ことかと考えます。

すでに決定しているのは、「飛騨大会は3年後の10月に行われる」ということです。

そのため、通常のカリキュラム上で、10月付近に行われる教材の実践例を、1・2・3年生の全てを多くしておけば、飛騨大会の授業を考える際に、「以前やったときに、こんな風に考えたんだけど」ということができるのではないかと考えました。

そう考えたときに、②・③で説明したことを元に、「各部員さんの担当学年で、10月の教材の〇〇を、◇◇さんにやっていただく。それを『中国研ホームページ』に資料提供していただく。それを用いて、本年度・来年度中に行われて行くであろう、指導案作成・検討に用いていければ」と考えています。

そのための実践作りが、飛騨大会につながると考えています。

以上①～⑤のことをお願いしたいと思っております。

正直④については、役員会でどこまで決裁を頂けるかにも関わりますが、8月に飛騨での準備会を行うことも踏まえて、準備を進めていきたいと考えています。

また、ご不明なことはラインを用いて教えてください。

よろしくお願いたします。